

土佐 | 自然派 しっくい 白亜
施工マニュアル



目次

1. 製品概要	2
2. 「土佐・自然派しっくい白亜」について	2
3. 施工上の注意事項	3
4. 内装用カラー漆喰 施工上の注意	3
5. 適用下地と下地づくり	4
内装下地について	4
外装下地について	5
6. 施工前に準備するもの	5
7. 水練り方法	6
8. 施工方法	7
内装施工手順	7
外装施工手順	9
リフォーム施工手順	10
屋根漆喰施工上の注意	11
9. メンテナンス・補修方法	12
10. お取扱いの注意事項	13

はじめに

現代日本人の生活環境・習慣の変化により問題となってきたシックハウス症候群、アトピー性皮膚炎、喘息などのアレルギー。購入した新築住宅から揮発する化学物質が原因でシックハウス症候群を発症し、のどの痛みや頭痛、めまい、発熱、だるさなどの健康障害をおこすことがあります。このような変化した住環境が原因と考えられる多くの問題を改善するため、昨今では日本の気候風土に見合った昔ながらの漆喰や無垢の木などの自然素材が少しずつ見直されています。

本来、人が自然の中で暮らしてきたように、家族が長い時間を過ごす空間を無垢の木や漆喰・和紙などの本物の自然素材で包み込むことによって、健康障害を招くことのない、人が本当に気持ち良く呼吸できる心地よい場所をつくることができます。

本施工マニュアルの内容については、『日本建築学会の建築工事標準仕様書 JASS 15 左官工事』に掲載されている標準的な既調合しっくい塗り工法に基づいています。

それぞれの地域で受け継がれた漆喰塗りの伝統工法と、左官工独自の創意工夫を駆使し、本書の内容をよくご熟読のうえ、より良い漆喰壁を仕上げてくださいようお願いいたします。



・・・各ページの特に重要な項目にこのマークをつけています

1. 製品概要

HAKUA

正味重量	20kg 入り (粉体)
成分	消石灰・大理石粉・麻すさ・海藻のり・植物性のり
標準塗厚	2mm
標準加水量	14～15リットル
標準塗面積	16㎡ (上塗り時)
標準色	白
専用カラー	10色 (内装用・各色約200g 入り) ※別売り



❗ **※化学物質過敏症の対策にご使用の場合は**、シーラー・アク止め材など、合成樹脂系（カチオン、アクリル、酢ビ）の石油化学物質はご使用頂けませんので、施工方法についてご不明な点は予めご相談頂きますようお願い致します。

※中塗り砂漆喰は現場調合となります。

中塗り砂漆喰のつくり方

本品1袋（20kg）に洗砂（1～2mm）もしくは珪砂4号又は寒水石3厘のいずれかを20kg混入して、充分水練りしてください。砂類を混入し、計40kgを水練りした砂漆喰の標準塗り面積は5mm厚で約5㎡となります。

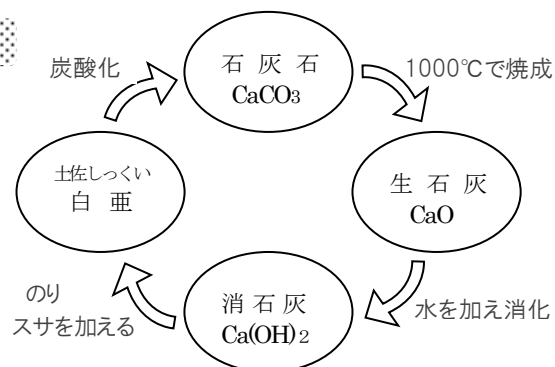
2. 「土佐・自然派しっくい白亜」について

HAKUA

- 本品は100%自然素材にこだわり、消石灰を主成分とし大理石粉・麻すさ・海藻のり・植物性のりを配合した「既調合漆喰」です。
- 本品は自然素材を成分とする漆喰ですので、調湿性・抗菌性・環境性など多くの優れた特性があり、人に無害で環境負荷のない壁材です。
- ❗ ■ 漆喰は空気中の二酸化炭素を吸収しながらゆっくりと硬化していく気硬性の材料です。そのため、仕上がった直後の漆喰壁に直射日光や通風があたり壁表面のみが急激に乾燥することで「ひび割れ」を起こします。施工後一週間程度は、外部はシートを外さない、内外部は極度の通風を避けるなどの養生を施し、ゆっくりと乾燥させてください。

「土佐・自然派しっくい白亜」の不思議な力

「土佐・自然派しっくい白亜」の主原料である消石灰の元は石灰石です。漆喰は空気中の二酸化炭素（CO₂）を吸収しながら100年以上の歳月を経て、もとの硬い石灰石に戻っていきます。自らの力のみで硬化しつづける安心で安全な自然素材です。



3. 施工上の注意事項

HAKUA

- ❗ 気温が5℃以下の時は施工を中止してください。
凍害により硬化不良などを起こします。
- ❗ 本品は施工前日に練り一晚練り置きしておくこと各成分の均一化が図られ、保水性、施工性が向上します。
寝かせた漆喰は、再度よく練り戻してからご使用ください。水を入れ過ぎるとクラック発生の原因となりますので、標準加水量の15リットル以内を厳守してください。
屋根しっくいとしてご使用の場合は、硬練りの方が作業性が良くなります。
- ❗ 下地がモルタル、土壁の場合、必ず砂しっくいの中塗りをしてください。
下付け、上付け2回塗りで約5mm厚に仕上げ、外部施工の場合はクラック防止ネットを全面に伏せ込んでください。
※詳しくは施工方法の項（8～9ページ）をご参照ください。
- ❗ モルタル下地や石膏下地など水引きが激しい下地の場合は、水打ち・シーラー処理（4～5倍液）などの吸水調整を行ってください。また、保水性向上の目的で本品に海藻のり、又はセルロースのり（メトロゾなど）を追加混入しても構いませんが、入れすぎるとクラックの原因となりますのでご注意ください。
追加の配合量は、本品20kgに対して上限100gまでを目安としダマにならないよう十分に混練してください。
- ❗ 本品の上塗り時の標準塗り厚は2回塗りで2～3mmです。極端な厚塗りや薄塗りはクラックや強度不足の原因となりますので、標準塗り厚を守ってください。
- ❗ 外部施工後はシート養生をして、直射日光、通風、雨などから施工面を守り2週間以上、乾燥養生を行ってください。外部施工・内部施工ともに直射日光、通風による漆喰表面の急激な乾燥は「亀甲状のひび割れ」の原因となりますのでご注意ください。また、施工直後に雨などにより水がかかると白華現象、強度低下を引き起こします。
- ❗ 本品は強アルカリ性です。漆喰が木部に直接接触すると変色することがありますので、枠周りや幅木部分などの木部と接するチリ周りはずべてマスキングテープでしっかりと養生してください。
- ❗ 本品は、コテ塗り専用の左官仕上げ材のため、ローラー仕上げ、吹き付け仕上げには使用できません。

4. カラー漆喰（内装用） 施工上の注意事項

HAKUA

- ❗ カラー漆喰は、自然素材である漆喰の特性上、気温や湿度などの条件、塗り厚や仕上げ方の違いなどによって多少の色違いや色ムラが発生する場合がありますのでご了承ください。
仕上げ後の色ムラを抑えるために以下のことに注意して施工にあたってください。

1. 下地を平滑に仕上げてください。下地が凸凹の場合、乾きムラやコテムラの原因となります。
2. 上塗り前の吸水調整を出来るだけ均一に行ってください。
- ❗ 3. 専用カラーを配合した場合、『鏝押え仕上げ』は特に色ムラになりやすいので、ご遠慮頂けますようお願いいたします。
4. 平面仕上げはサッと波を消した梨地仕上げなどの軽い仕上げがお薦めです。
- ❗ 5. 仕上げ後の部分的なコテあては色ムラの原因となります。
6. 別々のタイミングで水練りした本品を、同一壁面の途中で塗り継ぎすることはしないでください。

適用下地

- ◎内装下地・・・石膏プラスターボード・石膏ラスボード・土壁
- ◎外装下地・・・モルタル・土壁・コンクリート
- ◎リフォーム・・・ビニールクロス・繊維壁
- ※それぞれの下地に適した下地処理が必要です。

✕ 施工できない下地・・・プラスチック・木材・金属・タイル面など

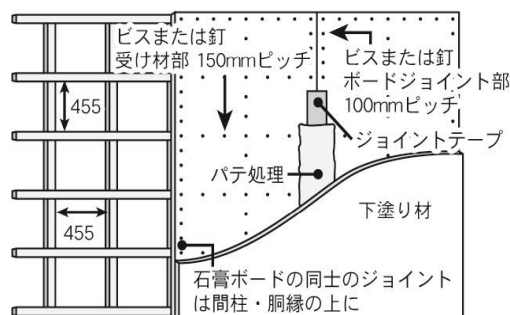
下地づくり

- ！ 漆喰をはじめとする塗り壁材の仕上がりを良くし、また永く維持するためには下地づくりが最も重要です。自然素材の漆喰壁にはビニールクロスのような柔軟性はなく硬い仕上がりになるために、下地の動きそのままにクラックを生じますので、現場では出来る限り動きの少ないしっかりとした漆喰用の下地づくりに努めていただけるよう、建築会社、大工工事業者などとの事前の打ち合わせを入念に行ってください。

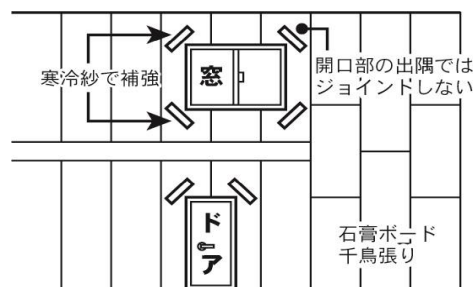
内装下地について *石膏ボード(平・Vカット)・ラスボード

1. 石膏ボードは12.5mm厚(平及びVカット)をご使用ください。

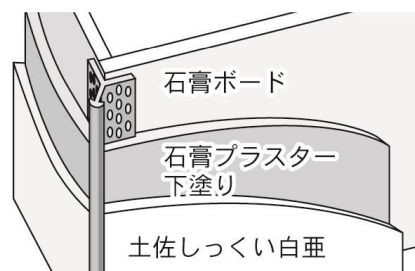
- ！ 2. 石膏ボード・ラスボードの貼り付けは、縦横受け木を455mm間隔にて土台をつくり、38mmの釘またはビスをジョイント部は100mm間隔、ボード中間部は150mm間隔以下でしっかりと留めてください。



- ！ 3. 扉や窓などの開口部の出隅部分ではボードのジョイントを避けて割付けてください。開口部廻りの出隅部分は斜めに亀裂が入りやすいので、右図のように寒冷紗などを貼り補強してください。吹き抜けなどの大壁工法ではボードのジョイントをずらす千鳥張りにする。



4. 石膏ボードの角(出隅部)の損傷が懸念される箇所には破損を防止するための補強材として右図のようなコーナビート(亜鉛めっき鋼板製)の取り付けをお勧めします。



5. エアコン・カーテンレールなどの重量物を取り付ける合板とのジョイント部は寒冷紗などで補強をしてください。

外装下地について ＊木造モルタル下地

注意事項

- ラス網は波形ラスなど、モルタルの食い付きの良い異形ラスをご使用ください。
- モルタル下塗り前に、ラス貼りが十分な施工をされているかよく確認してください。
- セメントモルタルには混和材、スサ、のり材等を配合しクラックを防止してください。
- クラック発生の恐れがある開口部廻りには、耐アルカリ性クラック防止ネットを開口部の廻りを囲むように張り付けてください。
- 大壁工法の場合は構造クラック軽減のため、フロア間の横目地を最大3m間隔、縦目地を最大5m間隔で入れることをおすすめします。

モルタル施工

モルタル塗りについては、構造的なひび割れなどが発生しないよう注意し、防火構造で指定された厚みなどに従い適切な施工を行ってください。既調合軽量モルタルを使用する場合は製品仕様に従ってください。モルタル表面に櫛目を付けて塗りつけ後、急激乾燥の恐れがある場合は散水養生し、必ず2週間以上の養生期間を置いて完全乾燥させてください。

※ラス下地へのモルタル施工については『日本建築学会の建築工事標準仕様書 JASS 15 左官工事』をご参照ください。

6. 施工前に準備するもの

HAKUA

- 保護メガネ・保護手袋・保護マスク ■左官用モルタルミキサー ■攪拌機（ハンドミキサー）
- 練り用 船（プラスチック製） ■大型バケツ ■左官用ポリバケツ（目盛り付き）
- 左官用 柄杓（ひしゃく） ■各種左官コテ・コテ板 ■ジョイントテープ
- ひび割れ防止ネット（寒冷紗） ■ジョイントパテ材 ■各種養生用テープ・マスキングテープ
- 耐アルカリ性クラック防止ネット（外部専用）

- しっくい油（外壁及び屋根用）



しっくい油 500cc 入り 外壁及び屋根用

- 植物性油 100%
 - 防水効果を発揮し、カビ、汚れから漆喰壁を守ります
 - 配合することによりコテのびが良く、施工性が向上
 - 急激な乾燥を抑え、クラックの発生を防ぎます
- ※取り扱い方法については6ページをご参照ください

※上記の各左官道具以外にも、適宜必要なものをご準備ください。

1

清水を 130 入れた容器に、専用カラーの粉末顔料をすべて入れます。専用カラーを入れない場合も、必ず先に水を入れてから本品を 8 割ほど入れてください。

!



必ず先に専用カラーのみを清水で溶いてください。漆喰本体を袋から出す際に、粉が舞うことがありますので水練り作業は屋外で行ってください。



2

ハンドミキサーで攪拌し、粉末顔料を清水に溶かします。水とカラーをよく混ぜた後、本品を 8 割ほど投入し放置します。すぐに混ぜると粉とスサなどのダマができやすいので、しばらく水に浸けてください。



混ぜる際に周囲に飛び散らないようご注意ください。



3

攪拌する前に、本品を水に浸けたまま最低でも 10 分以上、可能であれば 1 時間以上置くと粉と水が馴染んで混ざりやすくなります。その後 15～20 分間を目安に充分攪拌してください。



粉末顔料が沈殿しないように容器の底部から攪拌させて十分練り込んでください。



4

水 1～20 を加えながら、適度な柔らかさに調整します。水を標準加水量以上入れると、漆喰が硬化したときにクラックが生じやすくなります。標準加水量 150 以下を厳守してください。

!



ミキサーの羽に絡んだスサは撤去せず戻して練り込んでください。スサの塊、だんご状のものがなくなるまで入念に練ってください。



5

練り作業後は密閉し、一日練り置きしておくことで各成分の均一化が図られ、保水性、作業性が向上します。



一日寝かせた漆喰は、再度よく練り戻してからご使用ください。



内装施工手順

石膏ボード下地

- ❗ 1. 石膏ボードのジョイント部分すべてにジョイントテープを貼り付けてください。チリ際にはマスキングテープを貼り、しっかりと養生を行ってください。
2. ジョイントの溝部分とビス又は釘の凹み部分をパテで埋め、パテ部分が盛り上がらないようサンドペーパーなどで平滑な下地に仕上げてください。
3. 石膏ボードに*下塗り用石膏プラスターを規定の厚みで平滑に塗り付け金鋸押さえしてください。
(*吉野石膏 Uトップ など)
※ナチュラルベース（自然派下塗り材）をご使用の場合は製品資料をご確認ください。
4. 完全乾燥した石膏プラスター全面にムラなく水打ち、または吸水調整材を塗布し、十分練り込んだ「土佐・自然派しっくい白亜」をこすり塗り（下付け）し追っ掛けで上付けし、2回塗りで2mm程度に塗り付けます。水引きのタイミングを見計らって各テクスチャーをつけ仕上げてください。
※ナチュラルベースをご使用の場合は、吸水調整材を塗布する必要はありません。



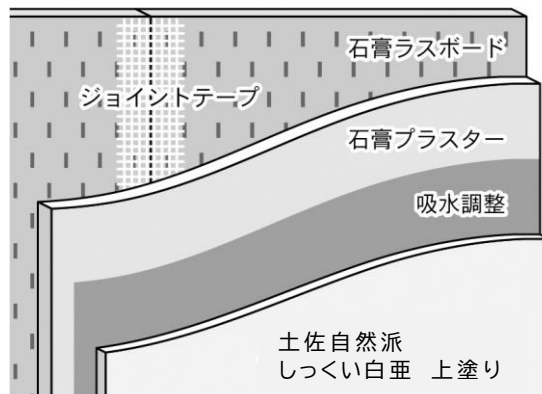
石膏ボード下地の簡易工法

簡易工法は工期短縮、工費削減のメリットはありますが、石膏プラスターの下塗り工程を省略することにより石膏ボードのジョイント部分のクラックや壁の耐久性などの面では通常の工法には劣ります。建築会社、施主様と十分ご相談の上で施工にあたってください。

1. 石膏ボードのジョイント部分すべてにジョイントテープを貼り付けてください。
チリ際にはマスキングテープを貼り、しっかりと養生を行ってください。
2. ジョイントの溝部分とビス又は釘の凹み部分をパテで埋め、パテ部分が盛り上がらないようサンドペーパーなどで平滑な下地に仕上げてください。
3. 石膏ボードに漆喰用シーラーを3倍希釈（原液1：清水3）し、ローラーで全面に塗布する。
4. 半日程度乾かした状態で、十分練り込んだ「土佐・自然派しっくい白亜」をこすり塗り（下付け）と追っ掛けで上付けし、2回塗りで2mm程度に塗り付けます。
水引きのタイミングを見計らって各テクスチャーをつけ仕上げてください。

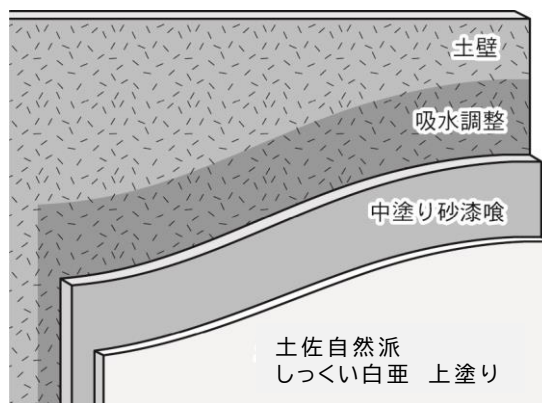
石膏ラスボード下地

1. 石膏ラスボードのジョイントすべてにジョイントテープを貼り付けてください。チリ際にはマスキングテープを貼りしっかりと養生を行ってください。
2. 石膏ラスボードに*下塗り用石膏プラスターをこすりつけ、つけ送りで塗厚8mm程度にむらなく塗り木コテでならし、平滑に仕上げ完全乾燥させてください。
(*吉野石膏 Bドライ など)
3. 完全乾燥した石膏プラスター全面にムラなく水打ち、もしくは吸水調整材を塗布し、十分練り込んだ「土佐・自然派しっくい白亜」をこすり塗り（下付け）し追っ掛けで上付けし、2回塗りで2mm程度に塗り付けます。水引きのタイミングを見計らって各テクスチャーをつけ仕上げてください。



土壁下地

1. 仕上がった土壁を十分に乾燥後、土壁全面にムラなく水打ち、もしくは吸水調整材を塗布し、十分練り込んだ中塗り砂漆喰を下付け、上付けで5mm程度に塗りつけ、水引き後木ゴテで平滑にならす。
2. 中塗り砂漆喰の表面が指で押しても凹まない程度の半乾き状態で上塗りに移る。中塗り砂漆喰の上に十分練り込んだ「土佐・自然派しっくい白亜」をこすり塗り（下付け）し追っ掛けで上付けし、2回塗りで2mm程度に塗り付けます。水引きのタイミングを見計らって各テクスチャーをつけ仕上げてください。



砂漆喰のつくり方

本品1袋(20kg)に洗砂(1~2mm)もしくは寒水石3厘又は珪砂4号のいずれかを20kg混入してよく水練りしてください。砂類を混入し、計40kgを水練りした砂漆喰の標準塗り面積は約5㎡となります。

外装施工手順

モルタル下地

1. 2週間以上（冬季：4週間以上）乾燥させたモルタル下地に、吸水調整、砂漆喰との接着増強のため、下地清掃後にエチレン酢酸ビニール系（EVA）シーラーを規定通り水で薄め、刷毛かローラーでムラなく全体に塗布してください。
- ❗ 2. シーラー塗布後、乾き具合を見て、砂漆喰をモルタル面にすり込むように下塗り後、上付けし塗厚5mmに塗り付けてください。その後すぐに、クラック防止ネットを全面にコテで伏せ込み、その上からネットの目が隠れる程度に砂漆喰を塗り付け、木コテで平坦にならしてください。クラック防止ネットの継ぎ目は5cm以上重ね貼りし、幅が1mに満たない面はカットして調整してください。



砂漆喰のつくり方

本品1袋（20kg）に洗砂（1～2mm）もしくは寒水石3厘又は珪砂4号のいずれかを20kg混入してよく水練りしてください。砂類を混入し、計40kgを水練りした砂漆喰の標準塗り面積は約5㎡となります。

3. 中塗り砂漆喰を施工後、砂漆喰の表面が指で押さえても凹まない程度（翌日～2日後）の半乾き状態で上塗りの仕上げを行います。十分に練り合わせ、1日程度寝かせた本品を、砂漆喰の表面にしごき塗りしてから、追っ掛けで上塗りし、塗り厚2mm程度に塗り付け、押さえ仕上げの場合は、水引きを見計らって硬めのコテで同一方向に押さえ込んでください。仕上げテクスチャーを付ける場合は、各パターンによって水引きの状態を確認し、タイミングを見て速やかにパターン付けを行ってください。入隅での塗り継ぎは避け、スサがよく回るように塗り込んでください。

こまい土壁下地

1. 荒壁土、むら直し、中塗土の一連の施工を終了後、完全乾燥させた中塗土下地に吸水調整、砂漆喰との接着増強のため、下地清掃後にエチレン酢酸ビニール系（EVA）シーラーを規定通り水で薄め、刷毛かローラーでムラなく塗布してください。
2. 「中塗り砂漆喰・クラック防止ネットの施工」及び「上塗り漆喰の施工」については上記■モルタル下地の②・③と同様の手順にて行ってください。

コンクリート下地

1. コンクリート面のレイタンス、汚れ等を除去し入念に清掃を行ってください。
2. 下地清掃後にエチレン酢酸ビニール系（EVA）シーラーを規定通り水で薄め、刷毛かローラーでムラなく全体に塗布してください。
3. シーラー塗布後、乾き具合を見て、セメントモルタル（セメント砂比1：2.5）をコンクリート下地に充分に押さえながらこすり塗ります。縮まり具合をみて、付け送りで8mm程度上付けし、水引き具合をみて、表面に櫛目を付けてください。塗りつけ後、急激乾燥の恐れがある場合は散水養生し、必ず2週間以上（冬季：4週間）養生期間を置いてください。
4. 「モルタル下地の吸水調整」「中塗り砂漆喰・クラック防止ネットの施工」及び「上塗り漆喰の施工」については上記■モルタル下地の①・②・③と同様の手順にて行ってください。

リフォーム施工手順

ビニールクロス下地

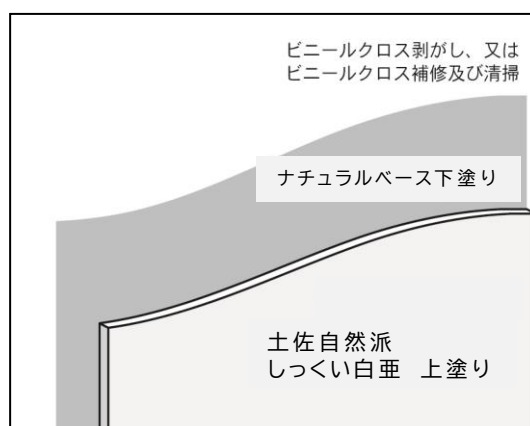


既存のビニールクロスについては出来るだけすべて剥がし、残った裏紙も全部剥がすことをお勧めしますが、きれいに裏紙を剥がせない場合は下地のボード面などを傷つけたり施工後の浮きの原因にもなりますので、既存のビニールクロスが下地のボードに対してしっかり接着している状態であれば、ビニールクロス剥がさず下地処理のみで漆喰を施工することもできます。

<注意点>

- ◆天井面のビニールクロスへの施工はご遠慮ください。施工する場合は、必ず剥がして健全な下地にしてから施工してください。
- ◆ビニールクロスを全面剥がす場合は、できる限り裏紙を除去した上で手順2からとなります。
- ◆布クロスの上からは施工できません。全面剥がした上で手順2からとなります。

1. ビニールクロス表面の汚れを中性洗剤の水溶液をつけた濡れ雑巾などで十分拭き取り、乾燥させてください。
2. 接着の弱い部分や継ぎ目が浮いている部分は剥がし、開口部廻り、入隅、継ぎ目部分など、剥がれが懸念される箇所はタッカーで止めてください。
3. 古いビニールクロスの場合、施工後、漆喰表面にアクが出てくる場合がありますので、アクが懸念される場合はアク止め剤を全面に塗布してください。
4. クロス面に自然派下塗り材ナチュラルベースを0.5mm以下の厚みで薄く塗り伸ばしてください。



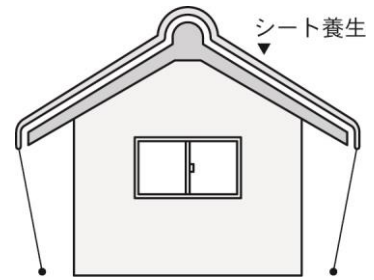
5. 仕上げのしっくい塗りは、ナチュラルベース下塗りから約1時間～2時間後を目安とし、下塗りの表面が少し固まったタイミングで行ってください。下塗りの表面が乾燥した状態への仕上げしっくいの施工は、しっくいの水が吸われて塗り難いことがあります。その際は、乾燥した下塗り面に霧吹きやローラーなどで水を少し含ませると塗りやすくなります。下塗りを施工後、数日おいて完全乾燥した状態でも、吸水を調整すればしっくい塗りを行うことができます。仕上げは、十分練り込んだ「土佐・自然派しっくい白亜」をこすり塗り（下付け）し追っ掛けで上付けし、2回塗りで2mm程度に塗り付けます。水引きのタイミングを見計らって各テクスチャーをつけ仕上げてください。

繊維壁下地

1. 繊維壁の表面がポロポロ落ちたり剥がれたりする部分はすべて剥がして撤去し、凹凸部分はパテ処理を行い平滑な状態にする。
2. 汚れの激しい場合はアク止め処理を行い、その後、自然派しっくいナチュラルベースを0.5mm以下の厚みで薄く塗り伸ばしてください。下塗りから仕上げの方法は上の「ビニールクロス下地」の手順5をご参照ください。

屋根漆喰施工上の注意

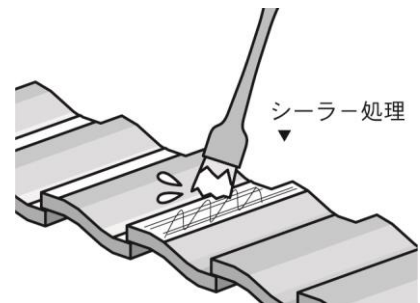
- ❗ 1. 作業は天気の良い日、気温は5℃～35℃の範囲内で行ってください。
作業後は雨対策のシート養生を十分に行ってください。
夏場は3～4日、冬場は一週間程度、雨に濡れないようにしてください。
雨で漆喰が流れたり硬化不良の原因となります。



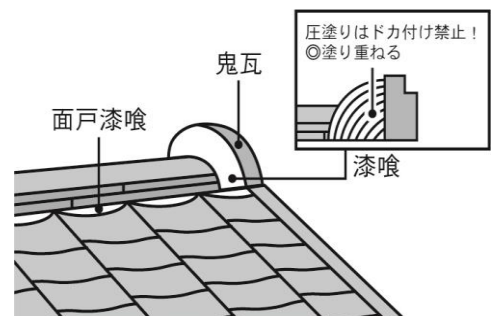
2. 日本瓦は水引きが早いので、柔らか目の練り具合の漆喰で塗り付け、陶器瓦は水引きが遅いので幾分かた目で塗り付けてください。

かために	やわらかく
陶器瓦	日本瓦
水引きが遅い	水引きが早い

3. 瓦への付着は本品のみでも十分ですが、下地によって付着性が弱い場合はシーラー（NSハイフレックス3倍液など）を瓦表面に塗ると付着性が向上します。



- ❗ 4. 鬼瓦を巻く場合などの厚塗り時は、一度にドカ付けするとひび割れや硬化不良の原因になるため、数回にわけて塗り重ね、形を整え盛り付けてください。



5. 面戸漆喰の施工は、本品を下地にすり込むように塗り付け、数回にわけて塗り重ねます。水引き具合を見計らって表面を整えてください。下地土が乾燥している場合は表面に水打ちするかシーラー（NSハイフレックス3倍液など）を塗布し吸水調整を行ってから施工してください。面戸の仕上げは雨水の浸入を防ぐため、一段目ののし瓦より30mm程度控えることが重要です。

こんな時に	補修と対応
仕上げ後の表面にアクが発生した	十分に完全乾燥させた後、アク止め材を原液で2回塗りし乾燥後、本品を上から塗布してください。
色漆喰の仕上げに色ムラができた	漆喰は自然素材のため場合によって色ムラが生じることがあります。これは自然素材の特性ではありますが、補修する場合は壁一面を再度上塗りしてください。(色漆喰の施工については3ページの注意事項をご熟読ください)
ヘアクラックが発生した	本品をフルイで細かいパウダー状にし、それをヘアクラックに指ですり込み、しぼったスポンジで軽くなでて馴染ませてください。
壁面に構造クラックが発生した	0.5mm以上のクラック幅の場合はクラック部分をパテ埋めし、本品をフルイで細かい粉状にして指ですり込み、霧吹き後スポンジで馴染ませてください。
亀甲状のクラックが発生した	部分補修は目立ちますので、出来れば壁一面すべて上塗りしてください。シーラー材を全面に塗布し本品を上塗りしてください。
物をぶつけて壁が凹んだ	凹みの程度によりますが、下地のボードまで凹んだ場合は①パテ処理②シーラー処理を行い本品を塗布し馴染ませてください。軽度の凹みは損傷した部分にシーラー処理し本品を塗布してください。
油性マジックやジュースなどの汚れが付いた	ホームセンターなどで売っている市販のキメの細かいサンドペーパー(＃180～320番手)で表面を擦って落としてください。
手垢や鉛筆を落としたい	プラスチック消しゴムで落としてください。落ちない場合はホームセンターなどで売っている市販のキメの細かいサンドペーパー(＃180～320番手)で表面を擦って落としてください。
漆喰壁の日常のお手入れについて	日常の清掃はほこりを取る程度で構いません。濡れタオルで漆喰壁をこすると、汚れが壁に浸透することがありますので避けてください。
長年経った漆喰を塗りかえたい	内壁の古い漆喰を塗り替える場合は、①既存の漆喰壁の強度を確認し十分清掃する②専用シーラー(3倍液)を既存の漆喰壁全面に塗布する③本品を下付け、上付けの2回塗り施工する。※詳しくは弊社までお問合せください。

※内容についてご不明な点は弊社までお気軽にお問合せください。

- 本品の主成分は水酸化カルシウム (Ca(OH)₂) です。
- 本品は強アルカリのため、保護メガネ、保護手袋、保護マスクを適宜着用してお取扱いください。
また取扱い後は手、顔、口等を水で十分洗浄してください。
- 本品は食べ物ではありませんので、口や鼻に入れないようにしてください。
- お子様の手の届かない場所に保管してください。
- 使用有効期間の目安は、製造日より1年です。(製造年月日は本体表右下に記載しています。)
- 保管する際は、水濡れがなく湿気の少ない屋内で床面から離して保管してください。
- できるだけ1袋単位で使い切ってください。
練り残った材料を一時保管する場合は、空気に触れないようビニール袋などに入れ密閉し、早めにご使用ください。(保管目安：約1ヶ月)
- 余った本品を廃棄する場合は、関連法規並びに地方自治体の基準に従い廃棄処理をしてください。
都道府県知事等の許可を受けた産業廃棄物処理業者、もしくは地方公共団体がその処理を行っている場合は、そこに委託して処理をしてください。

! ■ 応急処置

- 目に入った場合は、指などで擦らず、きれいな水で十分に洗浄し、直ちに医師の診断を受けてください。
- 皮膚についた場合はきれいな水で十分洗い流してください。
素手での取り扱いは肌荒れの原因となりますので、必ずゴム手袋などをご使用ください。
- 飲み込んだ場合は、きれいな水で口の中をよく洗浄し、直ちに医師の診断を受けてください。



手づくり土佐っくい 21



土佐・自然派っくい白亜

土佐・自然派っくい 白亜			
	 <p>日本漆喰協会 化学物質放散基準 自主認定制度合格品</p>	用 途	内外壁用
		正 味 重 量	20kg (粉状)
		標 準 塗 り 厚	2mm
		標 準 加 水 量	14~15リットル
		標 準 塗 り 面 積	16㎡ (上塗り時)
		材 料 設 計 価 格	5,500円/袋
		材 工 共 設 計 価 格	6,200円/㎡ (内壁)

※専用カラー(内装用 色番号 H-1~H-10)の材料設計価格は1袋 1,500円です。

※上記の材工共設計価格は、150㎡以上を基準とした場合の価格です。(外壁 7,000円/㎡)

※下地、仕上げテクスチャー、現場状況などによって材工共設計価格は変動しますので、予めご了承下さい。

<姉妹品> 手づくり土佐っくい 21			
	 <p>日本漆喰協会 化学物質放散基準 自主認定制度合格品</p>	用 途	外壁専用
		正 味 重 量	20kg (粉状)
		標 準 塗 り 厚	4~5mm
		標 準 加 水 量	約13リットル
		標 準 塗 り 面 積	8㎡ (上塗り時)
		材 料 設 計 価 格	6,500円/袋
		材 工 共 設 計 価 格	8,000円/㎡

※上記の材工共設計価格は、㎡数、下地処理、仕上げテクスチャーなど現場状況によって変動しますのでご了承下さい。

◆本品は改良のため、予告なく内容を変更する場合があります。



高知石灰工業株式会社

〒783-0084 高知県南国市稲生 3143-1
TEL 088-865-0014 FAX 088-865-0016
e-mail : info@kochi-sekkai.jp
WEB : http://www.kochi-sekkai.jp